

エ. 両生類

(7) 確認種

既存資料調査の結果は表8.8-13のとおりであり、2目2科2種が確認された。

表 8.8-13 両生類の確認種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	資料番号			
				①	②	③	④
1	無尾	アマガエル	ニホンアマガエル	○			
2		アカガエル	ウシガエル		○	○	○
-	1目	2科	2種	1種	1種	1種	1種

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト」（平成30年、国土交通省）に準拠した。

2. 「資料番号」の①～④は、表8.8-3の資料番号に対応する。

(イ) 注目すべき種

確認された両生類のうち、表8.8-5・6に示した選定基準に該当する注目すべき種は、表8.8-14のとおりであり、1目1科1種が確認された。

また、注目すべき種の特性及び確認状況は、表8.8-15のとおりである。

表 8.8-14 両生類の注目すべき種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	調査時期			注目すべき種の選定基準										
				春 季	夏 季	秋 季	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 RL2018	宮城県 RDB	仙台市					環境 指標種	
											減少種						
										学術上 重要	1	2	3	4	5		
1	無尾	アマガエル	ニホンアマガエル			●						+	+	+	+	+	○
計	1目	1科	1種	0 種	0 種	1 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	1 種	1 種	1 種	1 種	1 種	1 種

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト」（平成30年、国土交通省）に準拠した。

2. 確認時期は、「気象庁HP 気象庁が天気予報等で用いる予報用語」に基づき、3～5月を春季、6～8月を夏季、9～11月を秋季、12～2月を冬季とした。

表 8.8-15 注目すべき種の特性及び確認状況（ニホンアマガエル）

種名		ニホンアマガエル					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
-	+	+	+	+	+	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	日本全国。					
	仙台市内の分布	宅地の庭先など。					
	形態	20～45mm。背中が緑色で、鼻先から鼓膜の後ろまで黒っぽい帯状の模様が入る。					
	生息環境	平野や低山の田んぼなど。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-		
合計					-		

注：1. 「仙台市内の分布」は「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年、仙台市）（記載なし）から、「全国分布」、「形態」、「生息環境」は「山溪ハンディ図鑑9日本のカエル」（2002年、山と溪谷社）から引用した。

2. 注目すべき種の選定基準の区分は表8.8-5・6のとおりであり、「番号」は表8.8-3の資料番号に対応する。

オ. 昆虫類

(7) 確認種

既存資料調査の結果は表8.8-16のとおりであり、12目68科160種が確認された。

表 8.8-16(1) 昆虫類の確認種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	既存資料				
				①	②	③	⑤	
1	トンボ(蜻蛉)	アオイトトンボ	アオイトトンボ		○			
2			オツネイトンボ		○	○		
3		イトトンボ	キイトトンボ		○			
4			アジアイトトンボ	○	○	○		
5			アオモンイトトンボ			○		
6			セスジイトトンボ			○		
7			ヤンマ	マダラヤンマ			○	
8				ギンヤンマ	○	○	○	
9		トンボ	ショウジョウトンボ	○	○	○		
10			コフキトンボ	○		○		
11			ハラビロトンボ		○			
12			シオカラトンボ	○	○	○		
13			ウスバキトンボ	○	○	○		
14			コシアキトンボ	○		○		
15			チョウトンボ	○				
16			ナツアカネ		○	○		
17			マユタテアカネ		○			
18			アキアカネ	○	○	○		
19			ノシメトンボ	○	○	○		
20			マイコアカネ		○	○		
21	ゴキブリ(網翅)	ゴキブリ	ヤマトゴキブリ	○	○	○		
22	カマキリ(螳螂)	カマキリ	コカマキリ	○		○		
23			チョウセンカマキリ	○		○		

表 8.8-16(2) 昆虫類の確認種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	既存資料			
				①	②	③	⑤
24	シロアリ	ミゾガシラシロアリ	ミゾガシラシロアリ科の1種		○	○	
25	ハサミムシ(革翅)	マルムネハサミムシ	ヒゲジロハサミムシ		○		
26			ハマバハサミムシ		○	○	
27		オオハサミムシ	オオハサミムシ	○	○	○	
28	バッタ(直翅)	ツユムシ	セスジツユムシ		○	○	
29			アシグロツユムシ		○	○	
30		キリギリス	ウスイロササキリ		○	○	
31			コバネササキリ	○			
32		ケラ	ケラ		○		
33		マツムシ	カンタン		○		
34		コオロギ	エンマコオロギ	○	○	○	
35			ツツレサセコオロギ		○		
36		カネタタキ	カネタタキ			○	
37		バッタ	ショウリョウバッタ	○	○	○	
38			マダラバッタ	○		○	
39			ヤマトマダラバッタ		○	○	
40			トノサマバッタ	○	○		
41			クルマバッタモドキ		○	○	
42			イボバッタ			○	
43			イナゴ	コバネイナゴ		○	○
44		オンブバッタ	オンブバッタ	○	○	○	
45	ヒシバッタ	ハネナガヒシバッタ	○	○	○		
46	カメムシ(半翅)	ハネナガウンカ	アカハネナガウンカ			○	
47		セミ	アブラゼミ		○	○	
48			ミンミンゼミ			○	
49			ニイニイゼミ		○	○	
50		ヨコバイ	ツマグロオオヨコバイ		○		
51			オオヨコバイ	○	○		
52		サシガメ	クロモンサシガメ		○		
53			トゲサシガメ		○		
54			Staccia属の1種		○		
55		グンバイムシ	アワダチソウグンバイ		○	○	
56		カスミカメムシ	ナカグロカスミカメ		○		
57			フタトゲムギカスミカメ	○			
58			アカスジカスミカメ		○		
59			イネホソミドリカスミカメ		○	○	
60		ホシカメムシ	クロホシカメムシ		○		
61		ホソヘリカメムシ	ホソヘリカメムシ	○		○	
62		ナガカメムシ	コバネナガカメムシ		○	○	
63			ヒメナガカメムシ			○	
64		ツチカメムシ	ツチカメムシ			○	
65		カメムシ	ブチヒゲカメムシ		○	○	
66	オオクロカメムシ			○	○		
67	ヒメクロカメムシ				○		
68	アメンボ	アメンボ	○	○	○		
69		ヒメアメンボ	○	○	○		
70	ミズカメムシ	ヘリグロミズカメムシ		○			
71	アミメカゲロウ(脈翅)	ウスバカゲロウ	コカスリウスバカゲロウ	○			
72			クロコウスバカゲロウ		○		
73	チョウ(鱗翅)	イラガ	イラガ		○		

表 8.8-16(3) 昆虫類の確認種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	既存資料				
				①	②	③	④	
74	チョウ(鱗翅)	マダラガ	ヤホシホソマダラ			○		
75		セセリチョウ	イチモンジセセリ	○	○	○		
76			オオチャバネセセリ		○			
77		シジミチョウ	ルリシジミ		○			
78			ツバメシジミ		○	○		
79			ウラナミシジミ	○				
80			ベニシジミ	○	○	○		
81			ヤマトシジミ本土亜種		○	○		
82		タテハチョウ	コムシジ本州以南亜種			○		
83			キタテハ		○			
84			ヒメアカタテハ		○	○		
85			アカタテハ		○	○		
86		シロチョウ	モンキチョウ	○	○	○		
87			キタキチョウ		○	○		
88			モンシロチョウ		○	○		
89		ツトガ	シロオビノメイガ			○		
90		スズメガ	ホシヒメホウジャク			○		
91			ウチスズメ		○			
92		シャチホコガ	ナカグロモクメシャチホコ		○			
93		ドクガ	ドクガ			○		
94			マメドクガ	○				
95			マイマイガ			○		
96			ヒメシロモンドクガ			○		
97		ヤガ	オオバコヤガ	○				
98			ツメクサガ	○				
99		ハエ(双翅)	アブ	キンイロアブ			○	
100			ムシヒキアブ	ヒラタムシヒキ		○		
101				アオメアブ			○	
102	Neoitamus属の1種				○			
103	シオヤアブ			○		○		
104	ハナアブ		ナミハナアブ	○	○	○		
105	ミギワバエ		Ochthera属の1種			○		
106	ヤチバエ		ヒゲナガヤチバエ		○			
107	クロバエ		Isomyia属の1種			○		
108			ツマグロキンバエ		○	○		
109			シリプトミドリバエ			○		
110	ヤドリバエ		マルボシヒラタハナバエ		○			
111	コウチュウ(鞘翅)	オサムシ	Amara属の1種		○	○		
112			ゴミムシ	○				
113			アオゴミムシ			○		
114			セアカヒラタゴミムシ	○	○			
115			キンナガゴミムシ			○		
116		ハンミョウ	カワラハンミョウ			○		
117			コニワハンミョウ	○	○	○		
118			エリザハンミョウ	○		○		
119			コハンミョウ		○	○		
120		ゲンゴロウ	ハイイロゲンゴロウ		○			
121			チビゲンゴロウ		○			
122			ヒメゲンゴロウ	○	○	○		
123		ガムシ	Enochrus属の1種			○		

表 8.8-16(4) 昆虫類の確認種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	既存資料				
				①	②	③	④	
124	コウチュウ(鞘翅)	ガムシ	ヒメガムシ			○		
125		ハネカクシ	ツヤケシアカバウミベハネカクシ	○	○	○		
126		コガネムシ	ドウガネブイブイ		○			
127		コガネムシ	ヤマトアオドウガネ	○				
128			ヒメコガネ	○	○			
129			シロスジコガネ		○			
130			マメコガネ			○		
131			シロテンハナムグリ		○	○		
132			クロカナブン			○		
133			コメツクムシ	サビキコリ			○	
134			テントウムシ	ココノホシテントウ		○		
135		ナナホシテントウ			○			
136		ナミテントウ		○	○			
137		テントウムシダマシ	ヨツボシテントウダマシ			○		
138		アリモドキ	ヨツボシホソアリモドキ			○		
139		ゴミムシダマシ	キイロテントウゴミムシダマシ			○		
140			ムネピロスナゴミムシダマシ			○		
141			ヒメスナゴミムシダマシ			○		
142			ハマヒョウタンゴミムシダマシ	○	○	○		
143			ヒメホソハマベゴミムシダマシ	○	○			
144			ニホンキマワリ本土亜種	○				
145			ハムシ	アカバナカミナリハムシ			○	
146		ヨモギハムシ			○	○		
147		ブタクサハムシ				○		
148		サンゴジュハムシ			○			
149		クロルリトゲハムシ				○		
150		ゾウムシ	スナムグリヒョウタンゾウムシ		○			
151		ハチ(膜翅)	アリ	クロヤマアリ	○	○		
152				Lasius属の1種			○	
153	クロナガアリ				○			
154	スズメバチ		Eumenes属の1種		○			
155			スズバチ		○			
156			フタモンアシナガバチ本土亜種	○	○	○		
157			セグロアシナガバチ本土亜種	○		○		
158			キアシナガバチ本土亜種		○			
159	クモバチ		オオモンクロクモバチ			○		
160	ドロバチモドキ		ニッポンハナダカバチ				○	
計	12目	68科	160種	51種	99種	104種	1種	

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト」（平成30年、国土交通省）に準拠した。

2. 「資料番号」の①～④は、表8.8-3の資料番号に対応する。

(イ) 注目すべき種

確認された昆虫類のうち、表8.8-5・6に示した選定基準に該当する注目すべき種は、表8.8-17のとおりであり、5目7科11種が確認された。

また、注目すべき種の特性及び確認状況は、表8.8-18のとおりである。

表 8.8-17 昆虫類の注目すべき種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	調査時期			注目すべき種の選定基準										
				春季	夏季	秋季	文化財保護法	種の保存法	環境省 RL2018	宮城県 RDB	仙台市					環境指標種	
											減少種						
								学術上重要	1	2	3	4	5				
1	トンボ(蜻蛉)	ヤンマ	マダラヤンマ			●			NT	NT		●	●	●	C	C	
2		トンボ	ナツアカネ			●						●	C	●	C	●	○
3			マユタテアカネ		●							●	C	●	C	●	○
4			アキアカネ		●	●						●	C	●	C	●	○
5			ノシメトンボ			●						●	C	●	C	●	○
6			マイコアカネ		●	●						●	C	●	C	●	○
7	バッタ(直翅)	バッタ	ヤマトマダラバッタ		●	●				VU	2	●	●	●	●	C	○
8	チョウ(鱗翅)	マダラガ	ヤホシホソマダラ		●				NT								
9	コウチュウ(鞘翅)	ハンミョウ	カワラハンミョウ		●				EN	CR+EN	1	●	●	●	●	C	○
10		ゴミムシダマシ	ハマヒョウタンゴミムシダマシ			●						●	●	●	●	C	○
11	ハチ(膜翅)	ドロバチモドキ	ニッポンハナダカバチ		●				VU	CR+EN		●	●	●	●	B	
計	5目	7科	11種	0種	7種	7種	0種	0種	4種	4種	2種	10種	10種	10種	10種	10種	8種

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト」（平成30年、国土交通省）に準拠した。

2. 確認時期は、「気象庁HP 気象庁が天気予報等で用いる予報用語」に基づき、3～5月を春季、6～8月を夏季、9～11月を秋季、12～2月を冬季とした。

3. 注目すべき種の選定基準の区分は、表8.8-5・6のとおりである。

表 8.8-18(1) 注目すべき種の特性及び確認状況（マダラヤンマ）

種名		マダラヤンマ					
注目すべき種の選定基準	文化財保護法	-			種の保存法		-
	環境省RL	NT			宮城県RDB		NT
	仙台市						
	学術上重要種	減少種					環境指標種
	山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜		
	●	●	●	C	C		
種の特性	全国分布	北海道の道南と道央及び本州の東北地方と関東地方の一部をへて福井県と石川、長野両県にいたる東北日本に極めて局所的に分布する。					
	仙台市内の分布	青葉区大倉横倉、定義、下愛子、太白区秋保二口、笹川（佐保山）など。					
	形態	トンボ(蜻蛉)目ヤンマ科。腹長♂44～48mm、♀42～48mm。産卵は挺水植物が密生する中に潜入して茎に止まり、胸まで水に浸かって水面下の生態組織内へ行くことが多い。幼虫は水深の浅い藻類の良く繁茂した水域を好み、特に終齢は水際の挺水植物の根際につかまっていることが多い。					
	生息環境	主に丘裾の丈の高い挺水植物が密生する泥深い池沼に生息。					
番号	確認状況				地点数		確認数
③	平成27年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。				-		-
合計						-	

表 8.8-18(2) 注目すべき種の特性及び確認状況（ナツアカネ）

種名		ナツアカネ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-		
	環境省RL	-			宮城県RDB	-		
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
	.	C	.	C	.	○		
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。						
	仙台市内の分布	-						
	形態	トンボ(蜻蛉)目トンボ科。腹長♂21～25mm、♀20～27mm。アキアカネに酷似しているがひとまわり小さいこと、翅胸側面の第1側縫線の黒色条が下から2/3付近ではほぼ直角に断ち切れていることで識別できる。						
	生息環境	主に平地から低山地の丈があまり高くない挺水植物がおい茂る池沼や湿地・湿原・水田・溝などに生息。市街地の社寺の境内池など人工的な小水域にもしばしばすんでいる。						
番号	確認状況				地点数	確認数		
②	平成26年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。				-	-		
③	平成27年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。				-	-		
合計						-		

表 8.8-18(3) 注目すべき種の特性及び確認状況（マユタテアカネ）

種名		マユタテアカネ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-		
	環境省RL	-			宮城県RDB	-		
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
	.	C	.	C	.	○		
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。						
	仙台市内の分布	-						
	形態	トンボ(蜻蛉)目トンボ科。腹長♂♀20～28mm。顔面に1対の顕著な黒い眉状斑があるやや細身の中型アカトンボ。						
	生息環境	主に平地から低山地の挺水植物がおい茂る池沼や湿地・湿原・水田・溝川などかなり広範な止水域に生息。						
番号	確認状況				地点数	確認数		
②	平成26年度の夏季（7月）調査時に湿地で生息を確認した。				-	-		
合計						-		

表 8.8-18(4) 注目すべき種の特性及び確認状況（アキアカネ）

種名		アキアカネ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	-			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	.	C	.	C	.	○
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。				
	仙台市内の分布	-				
	形態	トンボ(蜻蛉)目トンボ科。腹長♂23～29mm、♀21～30mm。日本に産する赤トンボのうち最も普通にみられる代表的な中型種。タイリクアキアカネに酷似し、ナツアカネにも似ているが、体形がひとまわり大きくがっしりしていること、顔面の額基条に切れ込みがないこと、胸側の第1胸縫線にそう黒色条が太く明瞭で先端が細まっていることなどで識別できる。				
	生息環境	主に平地から低山地の丈があまり高くない挺水植物がおい茂る池沼や湿地・湿原・水田・溝などに生息。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
①	平成25年度の調査時に耕作農地及び非耕作農地で生息を確認した。			-	-	
②	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（10月）調査時に湿地及び河川で生息を確認した。			-	-	
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-	
合計					-	

表 8.8-18(5) 注目すべき種の特性及び確認状況（ノシメトンボ）

種名		ノシメトンボ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	-			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	.	C	.	C	.	○
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。				
	仙台市内の分布	-				
	形態	トンボ(蜻蛉)目トンボ科。腹長♂♀25～32mm。翅端に顕著な黒褐色帯がある細身のやや大型アカトンボ。成熟すると♂では胸までふくめて暗赤色になることで識別できる。				
	生息環境	主に平地から低山地の水ぎわに植物が繁茂する水深の浅い開放的な池沼や水田、溝川などに生息。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
①	平成25年度の調査時に耕作農地で生息を確認した。			-	-	
②	平成26年度の秋季（10月）調査時に湿地及び河川で生息を確認した。			-	-	
③	平成27年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-	
合計					-	

表 8.8-18(6) 注目すべき種の特性及び確認状況（マイコアカネ）

種名		マイコアカネ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	.	C	.	C	.	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。					
	仙台市内の分布	-					
	形態	トンボ(蜻蛉)目トンボ科。腹長♂♀17～25mm。顔面が乳白色をしたやや細身の小型アカトンボ。マユタテアカネ及びヒメアカネに似るが、翅胸の肩縫線の黒色条の上半部が分岐して逆h字形であること、第1側縫線の黒色条との間の上半部に短い黒色条があつて側面に4本の黒色斑列があることで識別できる。					
	生息環境	主に平地や丘陵地の挺水植物がおおい茂る腐植栄養型の池沼に生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
②	平成26年度の秋季（10月）調査時に湿地及び河川で生息を確認した。			-	-		
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-		
合計					-		

表 8.8-18(7) 注目すべき種の特性及び確認状況（ヤマトマダラバッタ）

種名		ヤマトマダラバッタ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	VU	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
2	C	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。					
	仙台市内の分布	若林区、宮城野区。					
	形態	バッタ(直翅)目バッタ科。体長♂30mm前後、♀30～35mm。白っぽい地色で、暗褐色の点々模様がある。翅は長く、後翅基部が淡青色である。					
	生息環境	海岸の砂地に生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
②	平成26年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-		
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-		
合計					-		

表 8.8-18(8) 注目すべき種の特性及び確認状況（ヤホシホソマダラ）

種名		ヤホシホソマダラ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法		-	
	環境省RL	NT			宮城県RDB		-	
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
種の特 性 (※)	全国分布	北海道・本州・四国・九州。						
	仙台市内の分布	-						
	形態	チョウ(鱗翅)目マダラガ科。開張♂♀16~21mm。触角は♂では両櫛歯状、♀では糸状。頭部、胸部、腹部は黒色で、暗青色の光沢がある。						
	生息環境	明るい草地に生息。本州では特に湿地を好む。						
番号	確認状況				地点数	確認数		
③	平成27年度の夏季(8月)調査時に生息を確認した。				-	-		
合計						-		

表 8.8-18(9) 注目すべき種の特性及び確認状況（カワラハンミョウ）

種名		カワラハンミョウ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法		-	
	環境省RL	EN			宮城県RDB		CR+EN	
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
1	C	○		
種の特 性 (※)	全国分布	北海道・本州・四国・九州。						
	仙台市内の分布	宮城野区蒲生。						
	形態	体長14~17mm。上翅の斑紋は外縁に沿って癒合するが、内紋はよく発達する型から消失する型まで変異が多い。体下面は紫銅色の光沢をもつ。上唇は前方へ張り出し、中央に1歯を備える。頭楯両側には明瞭な剛毛がある。海岸や河原の砂丘に生息するが、少ない。						
	生息環境	海岸や河原の砂丘に生息。						
番号	確認状況				地点数	確認数		
③	平成27年度の夏季(8月)調査時に生息を確認した。				-	-		
合計						-		

表 8.8-18(10) 注目すべき種の特性及び確認状況（ハマヒョウタンゴミムシ）

種名		ハマヒョウタンゴミムシダマシ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	-			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	C	○
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。				
	仙台市内の分布	名取川河口、宮城野区蒲生。				
	形態	コウチュウ(鞘翅)目ゴミムシダマシ科。体長4.4～5.6mm。体は暗褐色～黒色であるが、表面が鱗片状の毛で覆われ、その色彩と分布によって斑紋が形成される。				
	生息環境	海岸砂浜の満潮線の少し上あたりに生息。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
①	平成25年度の調査時に砂浜で生息を確認した。			-	-	
②	平成26年度の秋季（10月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-	
③	平成27年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-	
合計						-

表 8.8-18(11) 注目すべき種の特性及び確認状況（ニッポンハナダカバチ）

種名		ニッポンハナダカバチ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	VU			宮城県RDB	CR+EN
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	B	
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道・本州・四国・九州・屋久島・伊豆諸島。				
	仙台市内の分布	宮城野区蒲生。				
	形態	ハチ(膜翅)目ドロバチモドキ科。体長20～23mm。頭頂部は黒色で、頭盾と上唇の大部分は黄白色。胸部は黒色で前胸背板等に黄白色帯があり、腹部は黒色と黄白色のまだら模様となる。脚は主に黄色で、一部に黒色部がある。				
	生息環境	砂浜や河川の砂地に営巣するが、牧場のような開けた環境にも見られる。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
⑮	平成29年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。			-	-	
合計						-

注：1. 「仙台市内の分布」は「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年、仙台市）（記載なし）から、「全国分布」、「形態」、「生息環境」は「原色日本トンボ幼虫、成虫大図鑑」（1999年、北海道大学図書刊行会）から引用した。

2. 注目すべき種の選定基準の区分は表8.8-5・6のとおりであり、「番号」は表8.8-3の資料番号に対応する。

カ. 底生動物

(7) 確認種

既存資料調査の結果は表8.8-19のとおりであり、28目56科87種が確認された。

表 8.8-19(1) 底生動物の確認種 (既存資料調査結果)

No.	目名	科名	種名	既存資料																	
				①	②	③	④	⑥	⑦	⑧	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱						
1	イソギンチャク	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク	○	○	○											○				
2	-	-	無針綱の1種														○	○			
3	-	-	有針綱の1種														○				
4	古腹足	ニシキウズガイ	イシダタミガイ			○															
5	盤足目	キバウミニナ	フトヘナタリ				○				○							○			
6		タマキビ	タマキビガイ			○					○						○	○			
7		カワザンショウガイ	キントイロカワザンショウガイ	キントイロカワザンショウガイ														○	○		
8			クリイロカワザンショウガイ	クリイロカワザンショウガイ														○	○		
9			ヨシダカワザンショウガイ	ヨシダカワザンショウガイ															○		
10			ヒラドカワザンショウガイ	ヒラドカワザンショウガイ							○							○	○	○	
11	カワザンショウガイ		カワザンショウガイ											○				○	○		
12	基眼	サカマキガイ	サカマキガイ		○	○															
13	フネガイ	フネガイ	クイチガイサルボウ	○																	
14	イガイ	イガイ	ホトトギスガイ			○											○	○			
15			ムラサキイガイ			○	○											○			
16	カキ	イタボガキ	マガキ		○	○						○				○	○	○			
17	マルスダレガイ	バカガイ	シオフキガイ	○																	
18		ニッコウガイ	ヒメシラトリガイ															○			
19			ユウシオガイ															○	○		
20		アサジガイ	シズクガイ															○			
21		シオサザナミ	イソシジミ		○	○	○	○	○	○	○	○					○	○	○		
22		マテガイ	マテガイ					○		○											
23		シジミ	ヤマトシジミ																○		
24		マルスダレガイ	アサリ		○	○		○	○	○		○					○				
25	オオノガイ	オオノガイ	オオノガイ					○									○	○			
26	ウミタケガイモドキ	オキナガイ	ソトオリガイ	○	○	○		○	○	○							○	○	○		
27	サシバゴカイ	サシバゴカイ	ホソミサシバ															○			
28		ゴカイ	コケゴカイ							○											
29			ヒメヤマトカワゴカイ																○	○	
30			ヤマトカワゴカイ															○	○	○	
31			カワゴカイ属の1種						○	○	○								○	○	○
32			オイワケゴカイ																	○	
33			オウギゴカイ																	○	
34			イトメ								○										
35	スピオ	スピオ	ヤマトスピオ								○							○	○		
36			イトエラスピオ																○		
37			ドロオニスピオ																○	○	
38	イトゴカイ	イトゴカイ	イトゴカイ属の1種							○								○	○		
39			Heteromastus属の1種								○								○	○	○
40			Notomastus属の1種									○								○	
41	オフエリアゴカイ	オフエリアゴカイ	オフエリアゴカイ科の1種					○													
42	イトミミズ	ミズミミズ	ミズミミズ科の1種															○			
43	-	-	ユムシ綱の1種						○		○										
44	-	-	星口動物門の1種						○												
45	フジツボ	イワフジツボ	イワフジツボ		○	○															
46		フジツボ	ヨーロッパフジツボ																○		
47			シロスジフジツボ		○	○	○												○	○	○
48	カイエビ	カイエビ	カイエビ		○																
49	タナイス	タナイス	キスイタナイス属の1種																○		
50	クーマ	-	クーマ目の1種								○										
51	ヨコエビ	ヒゲナガヨコエビ	モズミヨコエビ																○		
52		ユンボソコエビ	ニッポンドロソコエビ						○	○	○								○	○	
53		ドロクダムシ	ウエノドロクダムシ																	○	○
54		メリタヨコエビ	ヒゲツノメリタヨコエビ																		○
55			シミズメリタヨコエビ																		○

表 8.8-19(2) 底生動物の確認種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	既存資料															
				①	②	③	④	⑥	⑦	⑧	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱				
56	ヨコエビ	ハマトビムシ	ヒメハマトビムシ	○							○			○	○	○			
57	ワラジムシ	スナホリムシ	ヒメスナホリムシ	○							○								
58		コツブムシ	イソコツブムシ属の1種					○			○				○				
59		フナムシ	キタフナムシ												○	○	○		
60			フナムシ		○								○						
61			ハマダンゴムシ	ハマダンゴムシ													○		
62	アミ	アミ	ムカシアミ属の1種								○								
63			クロイサザアミ									○							
64	エビ	テナガエビ	シラタエビ	○															
65			ユビナガスジエビ			○							○						
66			スジエビ			○													
67			スジエビモドキ	○		○													
68		エビジャコ	エビジャコ属の1種							○		○							
69		ホンヤドカリ	ホンヤドカリ科の1種		○														
70		クモガニ	イソクズガニ										○						
71		ワタリガニ		イシガニ									○	○					
72				ガザミ										○	○				
73		ムツハリアケガニ	アリアケモドキ		○	○	○	○	○	○		○			○	○			
74		コメツキガニ		チゴガニ	○	○	○	○				○	○			○	○		
75				コメツキガニ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
76		オサガニ	ヤマトオサガニ	○	○	○						○				○	○		
77		スナガニ	スナガニ													○	○		
78		ベンケイガニ		クロベンケイガニ	○	○	○	○					○						
79				アカテガニ	○													○	
80				アシハラガニ	○	○	○	○						○		○	○	○	
81		モクズガニ		モクズガニ		○							○						
82				ヒライソガニ													○		
83				ケフサイソガニ	○	○	○	○	○				○	○		○	○	○	
84				イソガニ			○							○					
85				タカノケフサイソガニ		○	○										○		
86		イワガニ	オキナガレガニ										○						
87		ハエ（双翅）	ユスリカ	セボリユスリカ属の1種								○							
		28目	56科	87種	19種	20種	23種	9種	14種	13種	18種	21種	4種	33種	41種	26種			

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト」（平成30年、国土交通省）に準拠した。

2. 「資料番号」の①～⑱は、表8.8-3の資料番号に対応する。

(イ) 注目すべき種

確認された底生動物のうち、表8.8-5・6に示した選定基準に該当する注目すべき種は、表8.8-20のとおりであり、3目9科14種が確認された。

また、注目すべき種の特性及び確認状況は、表8.8-21のとおりである。

表 8.8-20 底生動物の注目すべき種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	調査時期				注目すべき種の選定基準															
				春季	夏季	秋季	冬季	文化財保護法	保存法	環境省RL2018	環境省海洋生物RD2017	宮城県RDB	仙台市					環境指標種					
													減少種										
											学術上重要	1	2	3	4	5							
1	盤足目	キバウミニナ	フトヘナタリ		●	●	●				NT		VU										
2			クイカクシ ^ノ ジョウガイ		●							NT											
3			ヨシカクシ ^ノ ジョウガイ		●								NT		VU								
4	マルズガ ^レ ガイ	バカガイ	シオフキガイ			●							DD										
5			ニッコウガイ	ヒメシラトリガイ		●								NT									
6				ユウシオガイ		●							NT		NT								
7				マテガイ	マテガイ		●	●							NT								
8				シジミ	ヤマトシジミ		●							NT									
9			オオノガイ	オオノガイ	オオノガイ		●	●					NT		NT								
10					イトメ				●						NT	NT							
11	ハマダンゴムシ	ハマダンゴムシ				●								DD									
12	ムツアリアケ ^ニ	アリアケモドキ				●	●							NT									
13	スナガニ	スナガニ			スナガニ		●								VU								
14					アカテガニ		●	●								NT							
				0種	12種	7種	1種	0種	0種	6種	1種	12種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種		

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト」（平成30年、国土交通省）に準拠した。

2. 確認時期は、「気象庁HP 気象庁が天気予報等で用いる予報用語」に基づき、3～5月を春季、6～8月を夏季、9～11月を秋季、12～2月を冬季とした。

3. 注目すべき種の選定基準の区分は、表8.8-5・6のとおりである。

表 8.8-21(1) 注目すべき種の特性及び確認状況（フトヘナタリ）

種名		フトヘナタリ					
注目すべき種の選定基準	文化財保護法	-			種の保存法		-
	環境省RL	NT			宮城県RDB		VU
	仙台市						
	学術上重要種	減少種					環境指標種
	山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜		
種の特性	全国分布	東北地方～九州、南西諸島。					
	仙台市内の分布	-					
	形態	殻は太く円筒状。成貝では、殻口外唇部が外側へ反転し、ほとんどの個体で殻頂部は欠落する。色彩には個体変異が多く、殻全体が黒褐色から白色の個体までである。殻長20～40mm。					
	生息環境	内湾奥部、河口部のヨシ原、マングローブ塩性湿地内に生息する。					
番号	確認状況				地点数	確認数	
④	平成23年度の夏季（8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。				-	-	
⑭	平成25年の冬季（2月）調査時に生息を確認した。				-	-	
⑮	平成29年度の夏季（7月）調査時に生息を確認した。				-	-	
⑱	平成27年度の夏季（7月）調査時に干潟で生息を確認した。				-	-	
合計							

表 8.8-21(2) 注目すべき種の特性及び確認状況（クリイロカワザンショウガイ）

種名		クリイロカワザンショウガイ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法		-	
	環境省RL	NT			宮城県RDB		VU	
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
全国分布		陸奥湾～種子島。						
仙台市内の分布		-						
種 の 特 性 (※)	形態	殻高5mm、殻径3mm。殻は塔型で直線的で膨らみは弱い。殻表は茶色から栗色で光沢があり、横帯はない。摩耗がなければ、縫合の下に1本の明瞭な溝がある。軟体部は黒い。						
	生息環境	内湾奥部河口汽水域のヨシ原内やその周囲の泥底・砂泥底表層や転石・漂着物の下等。干潮時の汀線から比較的遠く乾燥した場所を好む。						
番号	確認状況			地点数	確認数			
⑰	平成26年度の夏季（6月）調査時に護岸・転石で生息を確認した。			-	-			
⑱	平成27年度の夏季（7月）調査時に転石帯及びヨシ原で生息を確認した。			-	-			
合計					-			

表 8.8-21(3) 注目すべき種の特性及び確認状況（ヨシダカワザンショウガイ）

種名		ヨシダカワザンショウガイ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法		-	
	環境省RL	NT			宮城県RDB		VU	
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
全国分布		北海道南部、下北半島、八郎潟～九州南部。						
仙台市内の分布		-						
種 の 特 性 (※)	形態	殻長3mmでカワザンショウガイ類では小型種。螺塔は高く、螺層の膨らみが強い。クリイロカワザンショウの幼貝とよく似ているが、殻の色彩はうすく、光沢が強い。また、臍孔は狭いが明らかに開く点で区別できる。						
	生息環境	河口汽水域の高潮帯～飛沫帯の泥底・砂泥底に生じたヨシ原内部やその上部に接した植生の根元、落葉・漂着物等の下。						
番号	確認状況			地点数	確認数			
⑱	平成27年度の夏季（7月）調査時に潮間帯上部のヨシ原で生息を確認した。			-	-			
合計					-			

表 8.8-21(4) 注目すべき種の特性及び確認状況（シオフキガイ）

種名		シオフキガイ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	DD	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
全国分布		本州以南。					
仙台市内の分布		-					
形態		殻はほぼ三角形で、良くふくらみ、球体に近い丸みを帯びる。殻は白く、表面は平滑でつやがあり、同心円状の成長肋が見られる。殻長5cmになる。					
生息環境		砂質の潮間帯～水深20mに生息している。砂質干潟には普通。					
番号	確認状況				地点数	確認数	
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に干潟で生息を確認した。				-	-	
合計						-	

表 8.8-21(5) 注目すべき種の特性及び確認状況（ヒメシラトリガイ）

種名		ヒメシラトリガイ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	NT	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
全国分布		日本各地。					
仙台市内の分布		-					
形態		殻長3cmの卵形で、サビシラトリによく似ているが、小型で、後縁の突出が弱く、腹縁が直線的。また、殻頂に近い部分が橙色になる個体が多い。					
生息環境		淡水の影響の強い内湾奥の泥底に深く潜って生息している。アマモ場周辺の泥質干潟にも多い。					
番号	確認状況				地点数	確認数	
⑰	平成26年度の夏季（6月）調査時に潮下帯の砂質域で生息を確認した。				-	-	
合計						-	

表 8.8-21(6) 注目すべき種の特性及び確認状況（ユウシオガイ）

種名		ユウシオガイ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	NT			宮城県RDB	NT
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
種 の 特 性 (※)	全国分布	陸奥湾～九州。				
	仙台市内の分布	-				
	形態	トガリユウシオガイと近似するが、殻の色彩には白・黄・橙色の3型があること、やや大型、扁平であること、殻頂部の成長線は弱く、密であることなどから識別される。				
	生息環境	内湾の最奥部の泥質干潟の中潮帯付近に生息する。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
⑩	平成24年度の夏季（7月）調査時に潮下帯の砂質域で生息を確認した。			-	-	
⑰	平成26年度の夏季（6月）調査時に潮下帯の砂質域で生息を確認した。			-	-	
合計					-	

表 8.8-21(7) 注目すべき種の特性及び確認状況（マテガイ）

種名		マテガイ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	-			宮城県RDB	NT
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道南西部～九州。				
	仙台市内の分布	-				
	形態	最大殻長140mm、殻高15mm、殻幅12mm。殻は直線的な長筒形で、薄い。殻は淡黄色褐色で、前端は斜めに直線的な形。貝の内面にある前部・後部の開閉筋痕は細長い。				
	生息環境	砂質干潟の潮間帯に深さ20cm程度まで潜っている。外海に面した広い前浜干潟に多い。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
⑥	平成25年度の秋季（11月）調査時に泥砂質干潟で生息を確認した。			-	-	
⑧	平成27年度の夏季（7月）調査時に砂質及び砂泥域で生息を確認した。			-	-	
合計					-	

表 8.8-21 (8) 注目すべき種の特性及び確認状況 (ヤマトシジミ)

種 名		ヤマトシジミ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法		-	
	環境省RL	NT			宮城県RDB		-	
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜		
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道北部～九州。						
	仙台市内の分布	-						
	形 態	殻長3cm。丸みを帯びた三角形で膨らんでいる。殻の表面は光沢のある黒色で細かい規則的な成長脈がある。						
	生息環境	河口汽水域上・中流域の緩い流水中の砂礫底・砂泥底。						
番 号	確認状況				地点数	確認数		
⑰	平成26年度の夏季（6月）調査時に岸辺・護岸で生息を確認した。				-	-		
	合 計					-		

表 8.8-21 (9) 注目すべき種の特性及び確認状況 (オオノガイ)

種 名		オオノガイ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法		-	
	環境省RL	NT			宮城県RDB		NT	
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜		
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。						
	仙台市内の分布	-						
	形 態	殻は長い卵形で、後端は細くなり開く。殻表は白色から灰褐色、内面は白色。殻質は薄質でもろい。水管は太く長い。						
	生息環境	内湾の最奥部の泥砂質干潟に深く潜って生息する。						
番 号	確認状況				地点数	確認数		
⑥	平成25年度の秋季（11月）調査時に泥砂質干潟で生息を確認した。				-	-		
⑰	平成24年度の夏季（7月）調査時に潮下帯の砂質域で生息を確認した。				-	-		
⑱	平成26年度の夏季（6月）調査時に潮下帯の砂質域で生息を確認した。				-	-		
	合 計					-		

表 8.8-21(10) 注目すべき種の特性及び確認状況（イトメ）

種名		イトメ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-		種の保存法	-	
	環境省RL	-		宮城県RDB	NT	
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	
全国分布		北海道～沖縄。				
仙台市内の分布		-				
種 の 特 性 (※)	形態	未成熟個体の頭部の背面は暗緑褐色。体後部の背面は淡紅色を呈し、その中軸に深紅の血管が走る。				
	生息環境	河川汽水域の高潮帯（ヨシ原など）の砂泥底に穴居する。汽水域に隣接する淡水域に出現することもあり、かつては沿岸部の稲作に被害をおよぼすほど多産した。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
⑦	平成26年度の秋季（10月）調査時に砂質域で生息を確認した。			-	-	
合計					-	

表 8.8-21(11) 注目すべき種の特性及び確認状況（ハマダンゴムシ）

種名		ハマダンゴムシ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-		種の保存法	-	
	環境省RL	-		宮城県RDB	DD	
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	
全国分布		日本各地。				
仙台市内の分布		-				
種 の 特 性 (※)	形態	灰色・淡黄色に暗色斑紋があり、背面が高く膨らみ、からだを丸めると球状になる。体長1cmくらい。				
	生息環境	全くの陸生で、海浜の砂利・小石の下にひそむ。海が荒れた時には、陸上のかなり高いところまでのぼってくる。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
⑱	平成27年度の夏季（7月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-	
合計					-	

表 8.8-21(12) 注目すべき種の特性及び確認状況（アリアケモドキ）

種名		アリアケモドキ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	NT	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州、奄美大島、沖縄島。					
	仙台市内の分布	-					
	形態	甲幅は2cmほど。横長の六角形をした甲羅の上に峰状の稜線が横に走る。腹部は赤くなる。					
	生息環境	河川汽水域の泥質干潟や周辺の滞筋に生息。活動は夜間の冠水下で見られる。汽水域でもとくに淡水の影響が強い上流域が分布の中心である。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
②	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-		
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-		
④	平成23年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑥	平成25年度の夏季（8月）調査時に河川汽水域の泥質干潟や周辺の滞筋で生息を確認した。			-	-		
⑧	平成27年度の秋季（10月）調査時に砂質域で生息を確認した。			-	-		
⑭	平成29年の秋季（9月・10月）調査時に七北田川河口で生息を確認した。			-	-		
⑯	平成24年度の夏季（7月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-		
⑰	平成26年度の夏季（6月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-		
合計					-		

表 8.8-21(13) 注目すべき種の特性及び確認状況（スナガニ）

種名		スナガニ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	VU	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
種 の 特 性 (※)	全国分布	本州北部～九州。					
	仙台市内の分布	-					
	形態	甲長35mm、甲幅35mm程度まで。甲は四角形に近く、背中が少し膨らむが、両側は直線的。眼窩外歯は前方斜め両側に向かって鋭く伸びている。生体は全体が赤く、遠くから見てもよくわかるが、小さな個体は砂のように白と褐色の斑模様となっている。左右の鉗脚は大きさが異なり、大きい方の内面には発音のための顆粒の列がある。					
	生息環境	砂浜に普通で、夜の海岸でよく見かける。大潮満潮線付近に巣穴が多い。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
⑰	平成26年度の夏季（6月）調査時に干潟の砂質域で生息を確認した。			-	-		
⑱	平成27年度の夏季（7月）調査時に干潟潮上帯の砂地で生息を確認した。			-	-		
合計					-		

表 8.8-21(14) 注目すべき種の特性及び確認状況（アカテガニ）

種 名		アカテガニ					
注 目 す べ き 種 の 選 定 基 準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	VU	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
全国分布		青森県～九州。					
仙台市内の分布		-					
種 の 特 性 (※)	形 態	甲長30mm、甲幅35mm程度。甲は四角形、側縁にはやや丸みがあり、背面はやや扁平で表面が平滑。色は多様で、赤い個体以外にも黄～緑褐色などがある。雄の鉗脚は大きく、表面が平滑でつやがあり、赤く目立つ。甲の前側縁には歯がない。					
	生息環境	干潟の後背地のヨシ原やさらに陸側の土手や松林などの山林を生息地とする。干潟には、水分補給、脱皮及び繁殖のために降りてくる。					
番 号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に湿地で生息を確認した。			-	-		
⑮	平成29年度の夏季（8月）調査時に河口付近で生息を確認した。			-	-		
⑱	平成27年度の夏季（7月）調査時にヨシ原で生息を確認した。			-	-		
合 計					-		

注：1. 「仙台市内の分布」は「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年、仙台市）（記載なし）から、「全国分布」、「形態」、「生息環境」は「干潟の絶滅危惧動物図鑑－海岸ベントスのレッドデータブック」（2012年、日本ベントス学会編）、「干潟の生きもの図鑑」（2008年、三浦知之）、「干潟ベントスワールド図鑑」（2013年、日本国際湿地保全連合編）等から引用した。

2. 注目すべき種の選定基準の区分は表8.8-5・6のとおりであり、「番号」は表8.8-3の資料番号に対応する。

8.8.2 予 測

(1) 供用による影響（施設の稼働）

① 予測内容

予測内容は、施設の稼働による蒲生干潟に生息する動物相及び注目すべき種への影響の程度とした。

② 予測地域等

予測地域は、調査地域と同様の蒲生干潟とした。

③ 予測対象時期

予測対象時期は、施設の稼働の状態が定常となり、ばい煙の排出により大気質に係る影響が最大となり、排水の排出先である海域の水質に係る影響が最大となる2024年とした。

④ 予測方法

予測方法は、施設の稼働に伴う大気質及び水質の予測結果を踏まえ、蒲生干潟における動物相及び注目すべき種への影響を予測した。

⑤ 予測結果

ア. 大気質への影響に伴う動物への影響

施設の稼働に伴う大気質の年平均値予測結果は、表8.7-11のとおりである。

蒲生干潟における本事業による二酸化窒素の寄与濃度は、0.00003～0.00005ppm、二酸化硫黄の寄与濃度は0.00001～0.00003ppm、浮遊粒子状物質の寄与濃度は0.000005～0.00003mg/m³と、いずれも現況（バックグラウンド濃度）の0.04～3%と極めて低い値であり、本事業の稼働後も、大気質の状況はほとんど変化しないと予測された。

そのため、本事業の稼働による蒲生干潟に生息する動物相及び注目すべき種への影響は少ないと予測された。

イ. 水質への影響に伴う動物への影響

施設の稼働に伴う排水により水質の変化が想定される範囲は、計画地の排水口から水の汚れ（化学的酸素要求量（COD））が約59m、富栄養化（全窒素）が約92m、富栄養化（全リン）が約94mであり、計画地より約2km以上離れている蒲生干潟には排水の影響は及ばないと予測された。

したがって、本事業の稼働後も蒲生干潟における水質の状況はほとんど変化せず、蒲生干潟に生息する動物相及び注目すべき種への影響は少ないと予測された。

8.8.3 環境保全及び創造のための措置

(1) 供用による影響（施設の稼働）

施設の稼働に伴う蒲生干潟に生息する動物への影響を予測した結果、蒲生干潟における大気質及び水質の状況はほとんど変化せず、蒲生干潟に生息する動物への影響は少ないと予測された。

本事業の実施に当たっては、施設の稼働に伴う大気質及び水質への影響を可能な限り低減するため、表8.8-22に示す環境の保全及び創造のための措置を講ずることとする。

表 8.8-22 環境の保全及び創造のための措置（供用による影響（施設の稼働））

環境影響要因	環境の保全及び創造のための措置の内容
供用による影響 （施設の稼働）	<p>○ 大気質に関する環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 排出ガス処理設備として、以下に示す排煙脱硫装置、排煙脱硝装置及びバグフィルタを備え、「大気汚染防止法」（昭和43年法律第97号）の規制基準を遵守することはもとより、国内における同種・同規模プラントの中では、最高水準の排出ガス濃度値を達成する。 排煙脱硫装置：硫黄酸化物を除去するため、水酸化マグネシウムスラリーを使用した水酸化マグネシウム法による脱硫装置を採用する。 排煙脱硝装置：窒素酸化物を除去するため、アンモニアを還元剤とする脱硝装置を採用する。 バグフィルタ：ばいじんを除去するため、バグフィルタを採用する。 ・ 木質バイオマス専焼発電に事業計画を変更したことから、石炭燃焼に伴い発生する重金属類等の有害物質は排出しない。 ・ 木質バイオマスは硫黄分をほとんど含有しないために硫黄酸化物の発生抑制にもつながる。 ・ 微小粒子状物質について、発生原因の一つと考えられる窒素酸化物、硫黄酸化物、ばいじんの排出に対して、上記の環境の保全及び創造のための措置を講ずることにより、可能な限り排出を低減する。 ・ 排出ガスについては、硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじんの濃度等に関わる自動測定装置を設置し、常時監視を行う。 <p>○ 水質に関する環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海水冷却方式と比較して排水量が大幅に少ない冷却塔方式を採用する。 ・ ボイラ、冷却塔等の運転管理を適切に行う等、排水発生量の抑制に努める。 ・ 施設の稼働に伴い発生するプラント排水は、凝集沈殿、活性炭吸着及び中和の処理を行い、「水質汚濁防止法」等の規制基準に適合した水質とした後、計画地前面の公共用水域（海域）に排出する。 ・ 事務所棟等より発生する生活排水は、公共下水道に排除する。 ・ 公共用水域（海域）に排出するプラント排水は、化学的酸素要求量（COD）、濁度、油分、水素イオン濃度（pH）及び水温については常時監視するとともに、他の水質項目を含めて定期的に測定を行うことにより、法令に基づく基準値に適合していることを確認する。 ・ 木質バイオマス専焼発電に事業計画を変更したことから、石炭燃焼に伴い発生する重金属類等の有害物質は排出しない。

8.8.4 評価

(1) 供用による影響（施設の稼働）

① 回避・低減に係る評価

ア. 評価方法

予測結果を踏まえ、施設の稼働による大気質及び水質への影響に伴う蒲生干潟に生息する動物相及び注目すべき種への影響が、適切な環境保全及び創造のための措置により、実行可能な範囲で回避・低減が図られているか否かを判断した。

イ. 評価結果

予測の結果、本事業の稼働による蒲生干潟に生育する動物相及び注目すべき種への影響は少ないと予測された。

事業の実施に当たっては、排煙脱硫装置、排煙脱硝装置、バグフィルタによる大気汚染物質の除去等及び排水処理設備による水質汚濁物質の除去等により、大気質及び水質への影響は実行可能な範囲で低減が図られている。

したがって、施設の稼働に伴う大気質及び水質への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られており、蒲生干潟に生息する動物の動物相及び注目すべき種への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

なお、施設の稼働前後において蒲生干潟に生息する動物について現地調査を行い、本事業による影響を確認する。